

若者を考える、若者と考える

# YOUTH SERVICE

## VOL. 36

若者と支援者をつなぐ広報誌

YOUTH SERVICE VOL. 36

2020年4月15日発行

# 夢をかなえる学校がある!

—普通科目とコース専門科目(希望者のみ)の履修で高校卒業資格を取得



平成29年新校舎のぞみ館完成

## 特集 若者 × ○○



### 選べる4つの登校スタイル

Schooling × Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
- フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
- 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。
- 夏冬集中受講制**

※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。

### 選べる8の専門コース

Special × Course

- 進学
- 調理・製菓
- IT
- 理容師・美容師 (国家資格取得)
- 芸能マルチ(声優・ダンス・ミュージック)
- 美容
- 保育
- アート

※希望者のみ選択できます。※専門コースは毎年変更できます。※卒業単位に20単位まで認定できます。

### 盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部/料理部/写真部/演劇部/茶道部/吹奏楽部/軽音部/声劇部/TCG部/テニス部/卓球部/バスケットボール部/フットサル部/総合運動部/リズムゲーム部/書道部/JS部/放送部/軟式野球部/バトミントン部/フィッシング部/その他  
生徒会・保護者会・同窓会が連携して、在校生の活動を支援しています。

### 不登校相談支援センター なごみ教室

学校生活や人間関係等で不安感や緊張感が高まり不登校に悩む保護者や生徒を対象に、いきいきとした生活を送ることができるように、総勢7名のカウンセラーが支援します。

通信制・単位制・普通科



## 京都つくば開成高等学校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> 京都つくば

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町 406 番

TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021

◆JR・近鉄 地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分



私たちは青少年育成を応援しています!

平成27年4月京都府認可





# YOUTH SERVICE 特集 若者 ×

これまで若者の今を追う「特集」ページでは、4年間13回にわたり「若者×〇〇」と題して、若者や若者を取り巻く現状を、テーマごとに切り取り、今の若者の声、過去の若者や年代との比較、専門家による分析などから紹介してきました。2020～spring春～多くの若者が新たなスタートを切る季節。これまで紹介してきたテーマによる違いや共通点など、「若者×〇〇」をふり返ってみたいと思います。

もし気になる「若者×〇〇」がありましたら、ぜひ過去号を手にとってご覧いただければと思います。

今回はテキストマイニングの手法を使い、①出現率の高い、②特徴的な＝テーマを象徴するキーワードを**タグ**として記入しています。

●＝テーマ選択の経緯、本文抜粋、要約など。

特集

vol.23  
vol.35

23

## 若者×スポーツ

YOUTH SERVICE vol.23  
2016年1月1日発行



#スポーツ #ダブルダッチ  
#スケートボード #障がい #サポーター

- ダブルダッチやスケートボードといった若者が多く楽しむスポーツ、障害者スポーツを取り上げました。
- する、見る、支えるといった、楽しみ方の違いなど、スポーツに見る若者の価値観は変化してきている。

24

## 若者×結婚

YOUTH SERVICE vol.24  
2016年4月1日発行



#結婚 #離れ #離婚 #養う

- 若者の「結婚離れ」を切り口に、結婚という「カタチ」について取り上げました。
- 「カタチ」の変化がみられるからこそ、どのようなつながり、どのような関係性を築いていけるかといった本質が大切。

26

## 若者×多文化共生

YOUTH SERVICE vol.26  
2017年1月23日発行  
担当:伏見青少年活動センター



#多文化共生 #留学生 #ネットワーク  
#ちがいがい #就職 #ルーツ #受け入れ

- 伏見区は、外国にルーツを持つ住民が比較的多いこともあり、伏見青少年活動センターは、事業の柱の一つとして多文化共生の啓発を掲げていることから特集テーマに取り上げました。
- 「多文化共生で大切なことは「ぶつからないこと」ではなく「ちがいにどう向き合うか」。

## ぷちメッセージ

### この先を見据えて



認定NPO法人D×P  
生徒と社会をつなぐ事業部  
野津 岳史

大阪を拠点に、オンラインでの相談サービスや、関西・関東・北海道の定時制高校で高校生と多様な人がつながる居場所づくりや授業を行う「認定NPO法人D×P」で働いています。京都市ユースサービス協会さんとは、京都市の定時制高校で居場所づくり事業を共同運営させていただいております。

D×Pでは定時制高校での人とのつながりをつくるサービスを中心としてきましたが、近年オンライン相談事業にも力を入れてきました。特に現在は新型コロナウイルスの影響によって、オンライン相談のニーズが高まっています。きっと、この情勢の中、オンラインでのサービスは成長すると思います。

ただ、だからこそ、対面でのつながりが希薄になり、これを越えた先には対面でのつながりの価値がより高まるのでは、と考えています。

今は、若者と関わる現場はとても厳しい状況にあると思います。でも、この状況を越えたとき、対面での人とのつながりの価値が高まったとき、すぐに応えられるよう、何とか堪え、力を蓄えていくことが必要じゃないかと思っています。未来を見据え、一緒に乗り切っていきましょう。

## contents

- 3 特集 若者 × ○ ○
- 6 高校生が作ったページ 高校生が「ICカード」について考える
- 8 シリーズ はたらく若者
- 10 TOPICS 青少年活動センターのつかい方
- 14 ユースかわら版 ARTと笑顔で 満ち溢れた世界に ほか

### ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。



アゴピス  
〒606-8007  
京都市左京区山端町田町8-48(北山通り側) ☎ 075-755-6504  
叡山電鉄 修学院駅より徒歩2分

イイチョウジカ  
15:00～22:00 売り切れ次第終了  
水・日曜定休 不定期でけっこうお休みあり  
※facebook・Instagramでご確認ください

### 巻 スタ ン プ



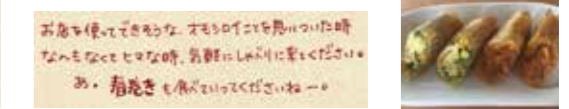
### ラ ッ プ & ロ ー ル

これには、ぷちメッセージ、ゆるいお客さん達に合わせた「ゆるい」の場をつくるうちに、目指している「公民館の道場」へのつながりがありました。

巻物にはいろいろなアイデアを載せて、お店にはいろいろな人を巻き込んで、なにもなくていい時、気軽にしにに集ったこと、あ、指輪も作ってくださーい。



お店の壁や棚などを使っての作品展示や、弾き語りライブで特技を披露してもらったり、ワインミーティング、流しうめんど、お店での雑談からうまれるイベントをしたり。







33

**若者×NEXT10Years**  
YOUTH SERVICE vol.33  
2019年4月1日発行

#社会 #ユースワーク #余暇 #民主主義 #私たち #目指す

- ユースサービス協会30周年の節目に、今年度1年をかけて、『Next10Years』と題してビジョンを考えて発信していく。今回の特集では、2019年1月に行ったYS協会職員によるワークショップについて報告しました。



**若者×つながる**  
YOUTH SERVICE vol.32  
2018年12月1日発行

担当:子ども若者総合相談窓口・支援室

#SNS #LINE #友だち #見知らぬ人 #日常 #送る #知り合う

- 「なるほど!」「こういう風にSNSを使っているのか」と知ってもらえるように、実際に活発にSNSを使っている若者に話を聞き、その実態を覗いてみました。
- 誰と繋がるのか、どのような内容を話すのかはSNSによって上手に使い分けていました。LINEでのやりとりは友だちや知り合いが多く、Twitterよりも相手との距離感の近さが出ている……。
- 危機管理の工夫から相談は直接会って話したり、電話で相談したりという慎重な面も。
- 共通の趣味や関心から見知らぬ人とも出会う入口にもなっており、そこで関係性ができると深い話をすることもある。



28

**若者×ハコ～やませい99時間～**  
YOUTH SERVICE vol.28  
2017年9月1日発行

担当:山科青少年活動センター

#やませい #ロビー #職員 #テニス#コトバ #ボードゲーム #呼び出す

- 「青年の家」「青少年活動センター」として「ハコ」を維持してきました。しかし、青少年施設にはどんな人たちが来ているのか、外からはわかりにくいことも多いと思われます。もう少し「ハコ」の中のできごとを多くの皆さんに知っていただけるように取り組んだ試みです。



**若者×地域ボランティア**  
YOUTH SERVICE vol.27  
2017年4月1日発行

担当:北青少年活動センター

#地域 #祇園祭 #学生 #地域住民 #ふれあう #動機

- 「研究者、ボランティア、ボランティアコーディネーターという三つの立場から、地域でボランティアする面白さ、苦心、工夫等を感じてください!」
- 「経験や力量不足で、活動の現場で役に立てず悔しい思いをすることもありますが、そうした経験が、若者たちに、よりよい活動を行うために必要な資質や能力は何かという気づきを与えてくれます。若者たちの『自分探し』はやがて『社会の中での自分探し』へと変わる。」



35

**若者×ジモト**  
YOUTH SERVICE vol.35  
2019年12月15日発行

担当:下京青少年活動センター

#京都 #学生 #地方都市 #大企業 #地元 #暮らす #働く

- 「大学のまち」「学生のまち」とよばれる京都市。京都を軸とした若者たちの「ジモト」観に迫りました。
- 京都に来たきっかけで「京都だから」という明確な理由17%と少ない。逆に「受かった」大学が京都だった、という回答が多い。
- 「卒業後も京都で暮らしたい」という比率は28%と予想外に低い。
- 京都出身者は半数が「京都で暮らしたい」と回答している。学生と社会人で回答に開きがある。
- 「地元で暮らしたい」という学生はほぼ1/3(紙面アンケート)



34

**若者×余暇**  
YOUTH SERVICE vol.34  
2019年9月15日発行

担当:中央青少年活動センター

#理想 #現実 #暇 #勉強 #寝る

- 「現代の学生は忙しい」。では、どのように余暇を過ごしているのかに焦点を当てました。
- 「理想:昼過ぎに起きる。ゴロゴロしながら映画とか観る。夕方から古着屋に行く、友達と飲みに行く。現実:朝早く起きる、夜まで働く、家に帰って寝る。」
- 「理想:1日8時間社交ダンス 現実:授業後～寝るまで課題」
- 「問われるべしは『余暇の意義』が問われる世の中の在り方そのものであり、この問いが出てきた背景にこそ私たちは向き合う時が来ているのではないか。」



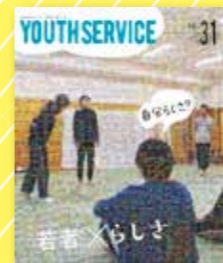
29

**若者×創り出す**  
YOUTH SERVICE vol.29  
2017年12月1日発行

担当:東山青少年活動センター

#芸術 #障がい者 #思いがけない #アールブリュット #ボランティア #他者

- 「頭の中で描いているものを表現する方法であり、縛りがなく自由で終わりが無い活動だと思います。」
- 「『個人が認められ、尊重される』空間での創作活動には(1)自分を表現する(2)他者に受け入れられる(3)他者を受け入れる」
- 既成概念にとらわれない自由な発想で生み出されたものを通して新しい価値観を感じることが出来ます。



31

**若者×らしさ**  
YOUTH SERVICE vol.31  
2018年9月1日発行

担当:京都若者サポートステーション

#サポステ #職業選択 #好き #納得 #答え #トレーニング

- タイトルを「自分らしさ」としてしまおうと、自分だけで決めないといけないような印象があるので「らしさ」だけにしました。自分の価値観だけで決める必要はなく他者、社会の影響も含めて形成されている「らしさ」に触れる特集。
- 「職業選択」と「自分らしさ」



30

**若者×30**  
YOUTH SERVICE vol.30  
2018年4月1日発行

#京都市 #ユースワーカー #センター #設立 #支援 #幅広い #先駆ける

- 広報誌30号特別記念号!“協会と若者にまつわる30のコト”をコンセプトに、1～30までの数字にまつわる話題を紹介。
- 「5…京都市民の5人に1人が若者」「28…平成28年度利用者数51万人」

若者×○○の編集を通して

「若者を語る」、もとい「若者と語る」うえで「若者×○○」は無限に広がりを見せています。携帯電話はティッシュボックスサイズからかまぼこ板まで小さくなり、電話をかけるだけから動画を見たり配信したりもできるようになりました。労働形態の変化としては正社員が当たり前と言えなかったり、グローバル化が進むことで多くの外国人が京都を訪れるようになったり、結婚したカップルのうち3組に1組は離婚していたり。道具や社会環境の変化とともに、それを使い、そこで生きる若者の文化そのものが変化しているのだと言えます。一方、これらの変化を捉えることで学び、挑戦、楽しみ、人とのつながり、応援など普遍的なものも見えてきたように思います。また、1つのテーマ、1回の特集だけでは気付かえなかったものだと思います。「○○」は、一つの側面です。今後も変化していく時代の中で「若者と語る」きっかけとして、あなたらしい、お気に入りの「○○」を見つける一助になればと思います。編集担当グループ



# 高校生が「ICカード」について考える

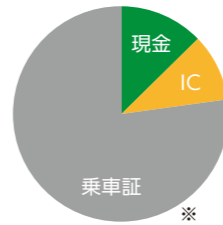
多くの人の生活の足となっている公共交通機関ですが、昔は人が改札に立って切符を切っていました。それが自動改札になっただけでなく、ICカードになってもっとスムーズに、便利になりました。ICカードはそれだけでなく、福祉や環境面でもプラス効果があります。それらを踏まえて、今回は高校生が「交通系ICカード」について考えます。

ICカードの利用率を独自調査！

## 調査したのは上田くん



平日昼間の市バス2便にて、現金利用者、ICカード利用者、乗車証利用者を数えてデータ化しました。  
調査日は、2020年1月6日（月）と1月7日（火）の、（両日とも）洛西バスターミナル14・13発29系統四条烏丸行です。



### 上田くん私見

私は、バス利用者は半数以上がICカード利用率がより高いと予想を立てて調査していました。なぜなら、バスを降りるときはともあわただしく、現金で支払うとなると相当時間のロスが生じてしまい、特に両替のために移動途中に席を立つのは、手間がかかると、揺れている車内の移動は心配もあります。  
なので、バスに乗る場合では特に現金よりICカード利用のほうが多いと考えていました。

さらに調べてみると、確かに現金利用の割合は少なかったですが、ICカードの利用率が高いわけでもなく、ダントツで多かったのは乗車証類でした。  
特に多いのが、敬老・福祉乗車証。これは券を運転手に見せるだけでバス乗り放題の優れもので、ICカード同様の利便性があるものと考えられます。（年配の方々や体の不自由な方々限定ですが）  
自分の調査では日中昼間の調査だったので特に年配の方々の利用が多く、4分の3が乗車証類という結果となっています。

## 地下鉄四条駅構内でICカードについてインタビュー！

### インタビューしたのは長倉さん



四条駅というところで京都在住の方だけでなく大阪や兵庫、奈良や滋賀から来ている方もいました。その結果、男女問わず幅広い年代でICカードが活用されていることが分かりました。半数以上の

方が1枚のカードだけを使っているようでしたが、最大で5枚所持の方もいてびっくり！ IC O C A と P i T a p a 2枚持ちの方も多く、学生さん達は定期としても使っていました。また東日本の S u i c a を持つ方もいました。  
ここで買ったICカードも日本中で使えるのは本当だと思います。チャージする金額は0円（定期のみとして利用から、1万円超えまで！）とはいえほとんどの方は2千円前後とのこと。  
またICカードにまつわるエピソードもいろいろ聞きましたが、残念だったのは失くした時に出てこないという方ばかりだったことです。

ここで私とICカードのエピソードを、ご紹介いたします。私がまだアメリカに住んでいた1年前、東京へ旅行で来て六本木ミッドタウンに母と行きました。そこで私は朝にチャージしたばかりのICカードを失くしたことに気づきました。トイレや立ち寄ったお店を探しても見つかるわけもなく、最後の望みで案内所へ行くと私の S u i c a が届けられていました！ 近くのお店で落としていたようで、それを見つけたお客さんが届けてくれました。日本はなんて親切で良い国なんだ！と母と大感動でした。  
ICカードは私達の生活に必要不可欠なものになりつつあると感じる今回の結果でした。

## ICカードについて 京都市交通局 春木宗幸さんにメールでインタビュー！

**Q1** ICカードはいつ頃から導入されるようになったのですか？  
地下鉄は平成19年から、バスでは平成26年からICカードサービスを導入しています。

**Q2** 京都市交通局が、ICカード利用を推進しているのはなぜですか？  
1枚のカードで様々な交通機関等を利用できるICカードは、お客様の利便性向上はもちろん、切符の購入や両替の手間等がなくなるため、スムーズな乗降が可能となります。また、バスの乗降にかかる時間が短くなることは、バスの混雑緩和にもつながるため、お客様と事業者双方にメリットのあるものとなっていますので、今後もICカード利用を推進していきたいと考えています。

**Q3** カード登場に伴う、高齢者や障害者の方々、海外からの旅行者の利用の変化などを教えてください。  
ICカードを利用している高齢者等の個別数字は把握していませんが、全体のIC利用率は増加しているもので、多くの方に便利にご利用いただいていると考えています。また、障害者をお持ちの方向けに、スルッとKANSAIが発行する特別割引用ICカードや、訪日外国人向けのICカード「KANSAI-ONE PASS」など便利にご利用いただけるものも発売されています。

**Q4** この先のICカードにどんな機能が必要だと思いますか？  
ICカードの利用率を向上させるため、ICカードを利用する方へのサービスを充実させる必要があると考えています。そこで各種割引乗車券の抜本的見直しを行い、ICカードによる乗継割引を中心とした割引制度への再構築を行うこととしています。その中で新たにICカードでのポイント還元制度の導入を予定しています。

**Q5** ICカード導入における、トラブルや課題はありますか？  
ポイント還元制度の具体的な内容は、今後検討していきますが、市民の方など、市バス・地下鉄をよく利用される方へより還元できるようなものを検討していきたいと考えています。

**A5** 特にトラブル等はありませんが、課題としてはICカードの利用率の向上があります。交通局ではバスで50%、地下鉄で80%を目標として掲げており、ICカードによるポイント還元制度導入や普及促進のためのPRやキャンペーン等により目標達成を目指していきます。

参考：  
平成30年度ICカード利用率  
市バス 31.9%（前年度比+8.1）  
地下鉄 61.5%（前年度比+11.6）

## アメリカのICカード事情



アメリカでICカードは日本ほど使われていません。車社会のアメリカではあまり便利ではなく、クレジットカードが主流です。48種類のICカードがありますが、それらの多くはそれぞれ一つの公共交通機関でしか使えません。みなさんが登校や出社にバスや地下鉄を乗り継ぐときには複数のICカードを持つ必要があり、コンビニや本屋でICカードを使うことは出来ません。そしてアメリカの公共の乗り物は時間通りに来ることはほとんどなく、特に夜は場所によっては少し治安が悪く乗るのが怖いです（ごめんなさい）。そして成人したアメリカ人の88%は車を持っているので、ICカードは必要ではないのです。私が住んでいたサンフランシスコで使う Clipper Card はアメリカで一番良いと言われているICカードの一つで、22種類の公共交通機関で使えますがそれは北カリフォルニア内に限ります。そのため周りの人たちは不満を漏らしていました。  
以上からアメリカでICカードはあまり人気ではなく、使う人が少ないのが現状です。  
※これは私が住んでいたホルルとサンフランシスコの話です。アメリカは広いのでむしろ場所によってはICカードが使われている場所があるかもしれません。

## まとめ

**上田くん** ICカードはとても便利なカードで、乗り降りをスムーズにしただけでなく、現金をたくさん持ち歩く必要もなくなったし、お年寄りにも優しく、メリットがたくさんあることがわかりました。しかし調べていく中で、まだICカードを導入できていない事業者や地域もあることも分かってきました。ICカードの利用範囲がますます広がり、全国の広大なネットワークが、シームレスにつながり、ICカードがもっと使いやすいカードになってほしいと私は願っています。

**長倉さん** ICカードはとても便利なのに、あまり深く考えたことはなくいつの間にか私の生活に普通にあります。今ではICカードのない生活は想像できません。それは同時に、もしICカードが停電とか何らかの理由で使えなくなった時にパニックになるだろうと思います。便利に慣れるだけでなく、セキュリティや不正利用時のバックアップの部分をもっと考えるべきだと思います。そしてこれからのICカードにどんな機能が増えるのかも楽しみです。

**和田さん** 今回、利用者のうち地下鉄でICカードが半数以上を、市バスでは乗車証が4分の3以上を占めていることがわかりました。地下鉄でICカードを使っている方はよく見かけるので、納得がいきませんが、市バスでの結果は少し意外です。乗車証の利用者は、高齢者や障害のある方が多いため、市バスはそんな市民の方の生活の足としてうまく機能していると言えるのではないのでしょうか。また、ICカードは生活に欠かせない存在のように感じます。これからもより便利になっていくと願いました。

### 編集したのは和田さん



※現金支払い、プリペイドカード、回数券、団体券等は「現金」、交通系ICカードは「IC」、一日乗車券、敬老・福祉乗車証等は「乗車証」で計算をしています。なお、ここでの調査は、ICカードを使ったどうか明記されている、定期外利用の統計で算出しており、定期券利用者はデータに含まれておりません。



現在に至るまでの経緯を教えてください。

そもそも京大に行こうと思ったのは、地元的なことから離れようとしたというのがあります。高校で真面目な話をしようと思って、抽象的なことを言ったりするところからかわれたりして。友達とは仲良くやってましたけど、そういうところはずっと居てはいけないう気がしました。高校は大阪だけど、大した進学校ではなかったの、ある種の「田舎」的なところがあり、そういうところを離れて京大に行くんだ、と思っていました。

高2まではほとんど勉強らしい勉強はしていませんでしたが、受験勉強を始めると楽しくなってきました。現役のときは落ちて浪人して、予備校に行っただけですが、そこで予備校講師に惹かれました。昔ほど破天荒な人はいませんが、ちょっとアウトロー的な雰囲気のある人や、研究者崩れみたいな人もいました。挑発的な発言や知的な批判などが新鮮で面白かったです。「これくらいは大学生になるんだ」って読まなきゃだめだ、なんて教養主義的な雑談もあり、そこで大学や学問、教養といったものに対する憧れも生まれてきました。現在進めている受験文化をめぐる研究も、こうした原体験が

もとになっています。

経済学部には何も考えずに入っただけで、塾講師の仕事などをしてるうちに、教育をちゃんと勉強したいと思うようになりました。京大生で自分の学歴に対する評価や待遇を当然視する人たちがいて、そのことに対して、それはお前らの親に金や学歴があっただけじゃないの、という疑問が湧いてきて、そういうところから教育格差の問題に関心を持ったこともあって、教育学部に移りました。

そこから大学院へ進学されたんですね

最初は予備校講師にでもなろうかなと思ってたところもあるんですが、予備校でこの人賢いな、って思っすぎて好きだった現代文の先生が京大の修士課程を中退していて、知的な予備校講師になるには、まず研究者を目指さなければいけないんだと思っていました。「研究者か研究者崩れの予備校講師になりたい」って昔は思っていました(笑)。

ただお世話になった講師の人たちには、「こんな俺ら日陰者やねんぞ」、「こんな仕事わざわざ目指すもんちゃうわ。せつかく京大行ったんやからちゃんと頑張れみたいなこと言われて。でもそれも当時

はかつこよく見えたんですね。どこか哀愁が漂う一方で、自分たちは

受験指導のプロではあるという自負も感じるというか。そういう暗さに惹かれたところもあります。

学校の教師とは折り合いが悪く、学制的なものに対する反発みたいなものがありました。こっちから突っかかっていって、「あかんもんはあかん」に決まってるやろって言われて揉める、みたいな。でも、それはたぶん、ちゃんと議論して欲しかったんですよね。ちゃんと突き詰めて考えていきたいという気持ちがあった、その時に大人が子どもをあしらうような対応してくるのが気に入らなかつた。予備校講師は学校くさいこと言わないんですよ。だけど学校の教師より学識があるっていうのがすごくかっこよく見えました。学校とのコントラストで予備校に惹かれたというのがあります。

大学院が就職かずっと悩んでいて、途中までは就活をして内定が出た企業に行くつもりだったんですが、卒論書いてたら楽しくなってきたのと、先生がとてつもなく来て、自分は研究者としてやっていけるかもしれない、という欲が出ました。ただ、能力的にも不安もあったので、踏み切って良いのかなと迷っていた記憶があります

す。いけるかな、勝負に出たいのかな、って。でも指導教員の先生が

「絶対大丈夫だから来なさいよ」みたいに言ってくれて。それだけ言ってもらえたこと自体が、認めてもらったみたいで嬉しかったし、安心感もありました。「飛べ」、「大丈夫だから」って言われて、大学院に進学することを決めました。

もともと本を書きたいっていう欲があったんですね。自分の名前を入れて、それを残したいという気持ちがある。それと、興味のあるテーマや、自分のできることなどが上手く重なったので、研究者の道を選ぶことにしました。

研究と予備校の両立は大変じゃないですか。

仕事の内容が研究テーマとかなり近いのと、英語を教えること自体が自分の勉強にもなっている、比較的前向きにはやれていると思います。あと、予備校は単純に給料がいいんですよね。そういう意味でも離れられなくなりました。

あなたにとってはたらくとは

少なくとも現時点ではやりたいことである研究がお金を生み出さないの、仕方なく自分の持っている中で金になるスキルを売っている

シリーズ

# はたらく若者

第7回



終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれませんが。でも複数回を並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではないか。「はたらく」から若者の今を見つめます。

藤村達也(27)  
京都大学教育学研究科博士課程/  
予備校講師

ます。予備校の仕事は時間とスキルの切り売りだという意識を持ってやっています。ただ将来的な、理想的なあり方としては、そのやりたいことはたらくこと、仕事が重なるように生きていきたいし、一生やる価値のあるものをやりたいと思います。

研究と予備校の仕事の二本柱だというのは、ポジティブに言えば両立していると言えるけれど、ネガティブに言えば分裂しちゃっています。一般論としては、仕事とやりたいことを結びつけるというのは、必ずしも良いこととは限りません。それでなくても良いと思っます。ただ自分のこととなると、やりたいことを仕事にしたいという気持ちがあります。関心が狭いということでもあるんですけど、自分が経験してきたことを研究していきたい。そういう意味で、現状では自分自身も浪人生みたいなものだと思います。研究一本で食っていけるようになるための助走期間ですね。



# 青少年活動センターのつかい方

京都市内には青少年活動センター（以下センター）が7ヵ所ありますが、**実際何ができるの？ どうやって使うの？** という方も多いはず。今回はセンターを初めて利用する人はもちろん、普段使っているけど何をしているところかまいち知らない人にセンターを紹介したいと思います♪

## 部屋利用



料理室



友達とお菓子の試作をしたいけど場所がない……とお困りの方へ  
おすすめなのが料理室です。北・南・伏見・山科センターにありま  
す。楽器演奏ができる音楽スタジオやダンスやスポーツができるス  
ポーツルームなど少し変わった部屋もありますよ。

料理室  
音楽スタジオ  
スポーツルーム



音楽スタジオ

スポーツルーム



創造工作室



音楽スタジオ

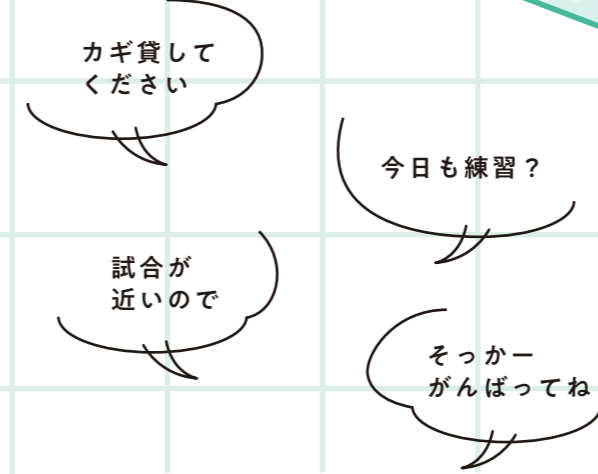


## 部屋の貸し出し

部屋の予約や鍵の受け渡しはまず受付へ  
お越しください。  
会議室や和室、ダンスができる部屋などさ  
まざまな部屋があります。さまざまな学校の  
人が集まるときにもおすすめです。サークル  
のミーティングはもちろん、テスト前の勉強  
会や演劇の練習などによく使われています。  
3カ月前から予約ができ、無料で利用で  
きます。  
※23歳〜30歳の方は青少年料金で、それ以外  
の方は、一般料金でご利用いただけます。

## 自習室

受付をして、利用できる自習室です。家で  
勉強できないときにおすすめ。











今年度は全部で3回の実施。最終回の今回は、Oneday Cafe・Kyotoの奥野美里さん、鈴木さよさんにお越しいただき、「発達凸凹のある子と関わる時のヒント」について考える場を持ちました。

ほっこりいられる場で学び、話し合った後は、「ごはん&交流会」。ホットプレートでピピンパを作りながら交流しました。あまり料理に親しんでいないメンバーが多い中、とても美味しそうなおごはんができていました！

**2月2日(日)、中学生学習支援事業でボランティア研修会を行いました**



「DISPURPLE」は、DISPURPLEを拡大するというムーブメントを起こすため、高校の同級生であるオザキアロハさんと髙橋辺エイジさんによって、2019年に京都で結成された次世代ART CREWです。DISPURPLEの表現を見た人が活動に参加し、その連鎖によって「口(笑顔)」の輪が拡大し、最終的には世界がARTと笑顔で満ち

**ARTと笑顔で満ち溢れた世界に**

# ユースかわら版



農業とか、農家さんの暮らしってちょっと興味あるな。

ちよっとだけ外で汗かいて自然と触れたいな。

そんな「ちよっと気になる」人が気軽に始められる農業が北青少

**若者農業探検隊 come CLUB**



年活動センターの『若者農業体験 come CLUB』です！

月1回5か月間、みんなで農作業して、大原でとれた食材を使ったおいしいごはんを食べて、農家の山本さんにいろんなお話を聞いて、のんびり楽しく農業体験しませんか？

初回の5月17日(日)は、田植えをします(笑)



発行 公益財団法人 京都市ユースサービス協会 〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262 TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231 E-mail: office@ys-kyoto.org HP: http://www.ys-kyoto.org 印刷: 株式会社台印刷所 デザイン: 株式会社オム

京都市ユースサービス協会では多くのご支援・ご寄付をいただいております。2019年4月～2020年3月までご寄付いただいた個人・団体様について、ご紹介させていただきます。

**年間総額 計927,295円(2020年3月末日時点)**

Sリーグ運営委員会のみなさま/横江 有子 さま/京都新聞洛南販売所 松井 憲昭 さま/田辺 洋子 さま/森本 空次郎 さま/ライトスタッフ さま/園田 博司 さま/橋本 達雄 さま/青木 誠治 さま/赤澤 清孝 さま/安保 千秋 さま/石山 裕菜 さま/岩槻 知也 さま/大熊 晋 さま/陽塚 文香 さま/柏木 智子 さま/亀井 達夫 さま/岸田 さま/桐澤 夏樹 さま/くまさま/さいとう さま/滋野 浩毅 さま/芝原 浩美 さま/鈴木 暁子 さま/たかこばあば さま/高田 啓 さま/高寺 恵子 さま/田中 誉人 さま/タニリョウジ さま/谷口 知弘 さま/永田 祐 さま/新山 隆司 さま/林 美輝 さま/樋掛 実喜雄 さま/藤場 恵見 さま/まつむらさゆこ さま/幸重 忠孝 さま/横関 つかさ さま/米原 裕太郎 さま/ユースシンポジウム2019 参加者のみなさま(順不同)

その他たくさんの方にご寄付いただきました。

クラウドファンディングを含め、いただいた寄付については、当協会の取り組み、ご指定いただきました事業に活用させていただきます。誠にありがとうございました。



**ふしみんな恋愛カフェ 2020**

伏見青少年活動センターではパレンタイムデーからホワイトデーの期間中、ロビー特設スペースにて「ふしみんな恋愛カフェ2020」を



実施。ユースワーカーと青少年、恋人との付き合い方「自身の性との向き合い方」など恋愛トークを行いました。

話のきっかけに手相占い、おみくじそして、若者に「理想の告白」や「ハッピーなオトナってどんなオトナ？」を書いてもらう掲示コーナーなど準備。そのなかで一番人気だったのは、ふしみんな的恋みくじ！引いたおみくじを特製結び所に結んで縁結び祈願も！

その他、思春期のQ&Aや性に関する本を並べたコーナーやコンドームを使ったワークショップを行い、関心をよせた若者たちに、ユースワーカーがさりげなく声をかけるなかで、真剣な話に展開する場面も。普段はオープンに聞けない性の話も、和気あいあいとし雰囲気なかで自然と笑顔になって盛り上がり、ユースワーカーにとっても楽しい1ヶ月となりました！



『しもせいチャレンジキッズ』では、下京青少年活動センター(通称:しもせい)で活動する青少年ボランティアが小学生向けのスポーツレクリエーションプログラムを企画しています。

2月22日(土)、23日(日)に2019年度5回目のプログラムを花背山の家で実施しました！雪は降りましたが、雪遊びができるくらいには残念ながら積もらず……。でも、火おこし体験や、キャンドルファイヤーを囲んでのレクリエーションなど、はじめて参加した小学生の子も楽しんでいる様子で、とても充実した2日間でした！

**しもせいチャレンジキッズ in 冬の花背山の家**